

# 脳神経外科

## 脳卒中について

### ★脳卒中とは？

脳卒中とは、一般的に使われる用語で、専門的には「脳血管疾患」といいます。

脳卒中には、いろいろな種類があり、脳の血管が破れて出血する「**脳(内)出血**」、脳を覆っている軟膜とその上の「くも膜」の間で出血する「**くも膜下出血**」、脳の血管が詰まって血液が流れなくなる「**脳梗塞**」、に大きく分けられます。

昭和40年代から死亡率は下がってきましたが、現在でも日本国内の死亡原因の第3位(がん、心臓病に次ぐ)になっています。

脳卒中で倒れると、後遺症が残って生活が困難となる可能性が高いことが問題です。

### ★脳卒中は予防できます ～脳卒中予防の10ヶ条～

#### 1)手始めに高血圧から治しましょう！

血圧は135/85mmHg以下を保ちましょう

#### 2)糖尿病、ほっておいたら悔い残る

糖尿病は心筋梗塞や腎不全、網膜症の原因です

#### 3)不整脈、見つかれば次第すぐ受診

循環器科での精査をおすすめします



#### 4)予防には、“たばこ”をやめる意志を持って！

節煙には意味はありませんので、すぐにやめてください



#### 5)アルコール、控えめは“薬”、過ぎれば“毒”

1日の適量は酒一合、またはビール中ビン1本程度です

#### 6)高すぎるコレステロールも見逃すな！！

悪玉コレステロールは特に注意

#### 7)食事の塩分・脂肪は控えめに！

塩分は1日6g以下が目標です

#### 8)体力にあった運動を続けよう！

まずは散歩から始めましょう



#### 9)万病の引き金になる太りすぎ！

腹八分目でも多すぎますので、七分目で

“ちょっと待て、その一口が万病のもと”

#### 10)脳卒中、起きたらすぐに病院へ

発症後3時間以内の脳梗塞は血栓溶解療法で治すことが出来るかもしれません

# 頭を打った後に注意すること

頭を打った後に頭の中に出血や脳に傷がつくと、命に関わったり、重大な障害を来すことがあります。一般に命に関わるような重大なことが起きるのは、**受傷後6時間以内のことがほとんど**です。その間は、頭を打った人をよく観察してください。次のような症状があった場合は、速やかに医療機関を受診してください。

## 1) 意識障害(意識の低下)

呼んでも返事がない、声をかけて体をゆすったりして眼を開けても、しばらくすると眠ったようになる

## 2) 手足の麻痺

手足に力が入らない、手足が動かない

## 3) けいれん発作(ひきつけ)

意識がなくなり、手足や体全体を“がたがた”とふるわせる

## 4) 頻回の嘔吐

何度も吐いたり、ぐったりとしている

## 5) 激しい頭痛

打った場所以外に頭全体が強く痛む。頭痛が強くなり嘔吐をともなうようになる

## 6) 視力障害、視野障害、複視(物が二重に見えること)

## 7) 鼻血や耳からの出血 が止まらない

## ★乳幼児の場合

打った後に激しく泣いて、その後“けろっと”している場合は心配ありません。機嫌が悪くないかどうか、よく観察してください。また、食べ物や飲み物を欲しがるようであれば、少量ずつ与えてください。飲み物を与えるときには、炭酸飲料は避けたほうが良いでしょう。

## ★高齢者の場合

打った直後に異常がなくても、打撲後1～2ヶ月後に  
**歩けなくなったり、手足が動かなくなったり、意識がはっきりしなくなったりすることがあります。**  
このような症状があった場合は、速やかに医療機関を受診してください。

**頭の中の出血の有無と、頭の“こぶ”や頭蓋骨骨折の有無とは必ずしも関係ありません。**

